



ニホンアシカ

ニホンアシカの飼育は現在国内では、三瓶自然館サヒメルに5頭、しまね海洋館アラスに2頭、鳥取大学に1頭、天王寺動物園に3頭、海外ではオランダのライオン保護館に8頭、イギリスの大英博物館に1頭の合計14頭が確認されている。

ニホンアシカは生息環境の悪化や乱捕により絶滅してしまつたといわれている。

古事記の中に、笥の神が「ネチ」の夜を八重に敷いて山守意を鼓舞したというくだりがある。また、出雲大社の相賀の横は「神守の夜の上に語を置いて行う」とある。「ネチ」とはニホンアシカの古名で國統の勅には「メチ」という呼び名が残っている。

リャンコ大王

三瓶自然館サヒメルの「リャンコ大王」はオスの成鹿の剥製としては唯一のものであり、「リャンコ大王」の「リャンコ」とは嘉永2（1849）年にフランス人が現在の竹島

2月22日の竹島の日を控え、2月4日、県庁前の竹島資料室を改めて訪問しました。

県民の皆様のみならず全国の方々にも、是非、訪れて頂きたいと思います。